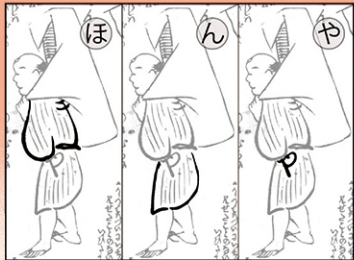


いにしへ字を製ること天の日月、人の目鼻、地の山川の如し。
……多くは形に象りて字を作る。——十返舎一九

よもやま話に尾籠な話……何事も包み隠さない
市井の「笑い」が垣間見える1冊！

江戸時代の戯作者、十返舎一九の滑稽本『文字の知画』を現代語読みで表記し、読解をまじえて解説。登場するのは商人、町人、花街の人に武士、町中を彷徨う人々など、老若男女総勢41人と犬1匹！絵の中に文字を表した一九の「文字絵」は必見です！

はんや



隠れた文字を探すのも楽しい！

江戸の文字絵

たわむ

十返舎一九

『文字の知画』
よみがえる大衆の笑い

楊曉捷 著
板坂則子 監修

定価 2,310 円 (10% 税込)
マール社